

フードロス削減に 向けた取り組み

日下永護 沢田洋行 世古智也
松山奈津伎 森川崇貴

アジェンダ

- ・フードロスとは？
- ・実際に取り組んだ活動
- ・ハローズモデル
- ・新モデルの提案
- ・まとめ

研究動機・目的

・動機

飲食アルバイトで大量のフードロスが発生している現状を知り、自分たちにも何かできることはないかと考えたから

・目的

日本のフードロスの現状や取り組みを知っていただき、学生の皆さんのフードロス削減の意識を高めること

フードロスとは？

本来食べられるのに捨てられてしまう食品

日本の食品ロス→約472万 t (R4年度)

東京ドーム約4杯分 1人あたり年間約38kg

事業系食品ロス 236万 t 家庭系食品ロス
236万 t

お茶碗一杯分の食べ物が毎日捨てられている計算

日本のフードロスに対する取り組み

食品ロス削減推進法

フードバンクの活動普及

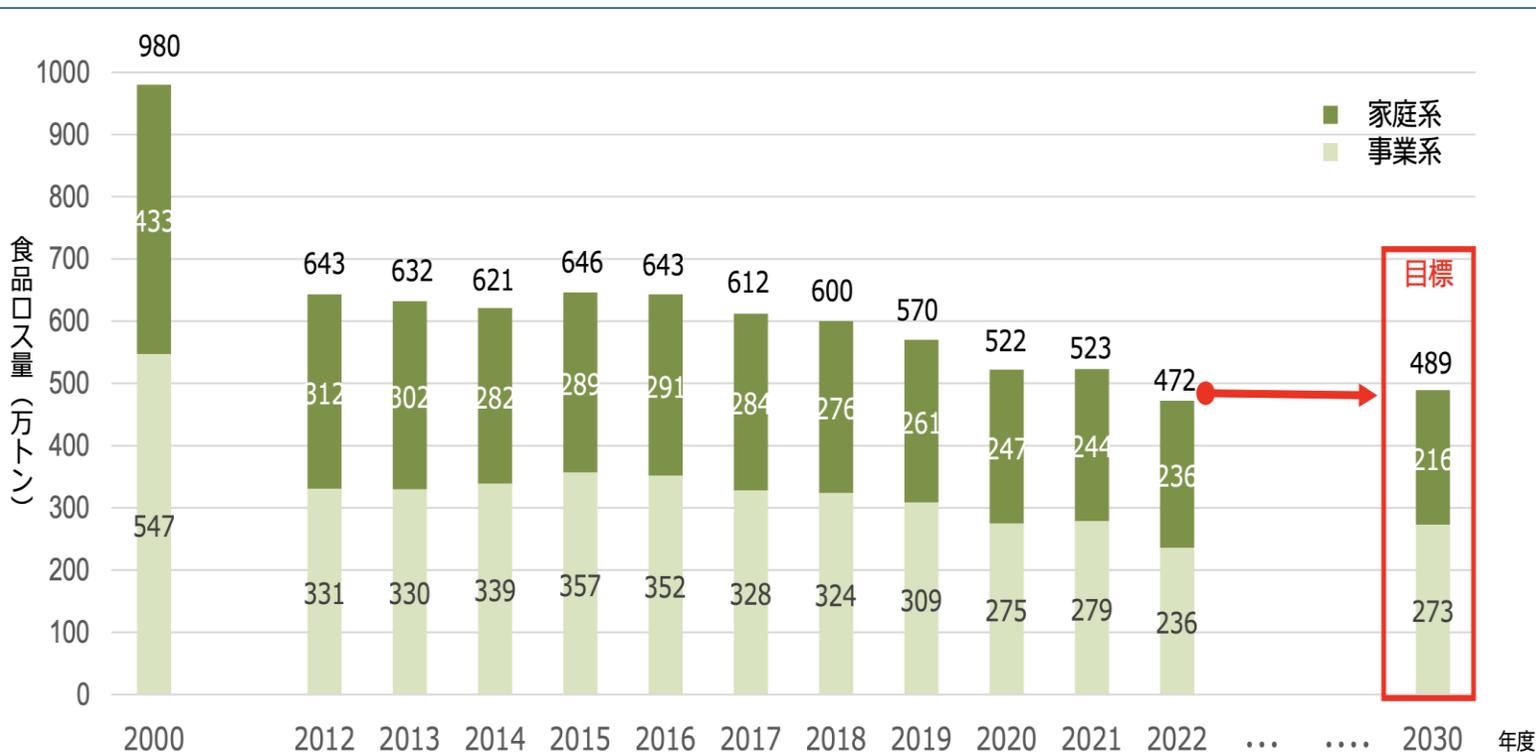
閉店間際の値下げや割引
Out)

FIFO (Fast In Fast

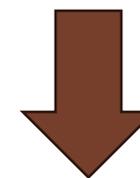
飲食店でのお持ち帰りバッグ

スマホアプリによるフードシェア

消費者庁が示す食品ロス量の推移と目標



農林水産省は、令和元年7月に公表した「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律」（食品リサイクル法）の基本方針において、事業系食品ロスを2000年度比で2030年度までに半減させることを目標にしている。



令和4年度で達成

年度	2000	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2030(2000)
家庭系	433	312	302	282	289	291	284	276	261	247	244	236(▲46%)	216(▲50%)
事業系	547	331	330	339	357	352	328	324	309	275	279	236(▲57%)	273(▲50%)
合計	980	643	632	621	646	643	612	600	570	522	523	472(▲52%)	489(▲50%)

(農林水産省及び環境省 推計) (単位 万トン)

※端数処理により合計と内訳の計が一致しないことがあります。

()内の数字は、2000年度と比較した削減率

世界の食品ロスの発生量

日本の家庭の食糧廃棄量は世界で14番目に多いが、他の先進国に比べると廃棄量が多いことがわかる。

この上位15カ国の中でも、日本の食料自給率は約38%と他国と比べると圧倒的に低い。

順位	国名	家庭の食品廃棄量 (kg/人/年)	家庭の食品廃棄量 (トン/年)
1	中国	64	91,646,213
2	インド	50	68,760,163
3	ナイジェリア	189	37,941,470
4	インドネシア	77	20,938,252
5	アメリカ合衆国	59	19,359,951
6	パキスタン	74	15,947,645
7	ブラジル	60	12,578,308
8	メキシコ	94	11,979,364
9	バングラデシュ	65	10,618,233
10	エチオピア	92	10,327,236
11	フィリピン	86	9,334,477
12	エジプト	91	9,136,941
13	コンゴ	103	8,912,903
14	日本	64	8,159,891
15	トルコ	93	7,762,575

オーストラリア



2021年度の家庭からの食料廃棄量が世界最も多かった

現在では47位まで順位を下けている

期限切れの商品を販売するスーパーマーケット

Ozharvest



OZHARVEST



オーストラリアで活動するフードレスキュー団体

余剰食材が出ている飲食店に食料を取りに行き、個人宅や施設など必要とする場所へ無料で配達する活動をメインで行う

余剰食材を扱う無料スーパーマーケットやカフェの運営も行う

シドニーを中心に活動をし、現在ではオーストラリア各地に拠点がある

日本にもJAPAN HARVESTというOZHARVESTをモデルとしたNPO法人がある

JAPAN HARVEST

倉庫を持たず引取商品はその日のうちに困窮団体へ

- 食品ロス削減推進大賞
消費者庁長官省
- 2023年 1日平均 60人超
約130kg
- 1年間 22000万人越



私たちの取り組み



フードレスキュー活動

ジャパンハーベスト様の活動に参加

「倉庫を持たないフードバンク活動」の視察を行いました

食品受け取り場所：スーパーマーケット、コンビニ、製造会社

企業様からの商品提供



ハローズ様（瀬戸内商勢圏の主要都市に店舗網を配置したスーパーマーケット）を10店舗



ファミリマート様を6店舗

食品のお届け

行政機関、児童養護施設、子ども食堂、子供シェルター、移住者支援団体へお届け

・ 児童擁護施設



・ 子どもシェルター



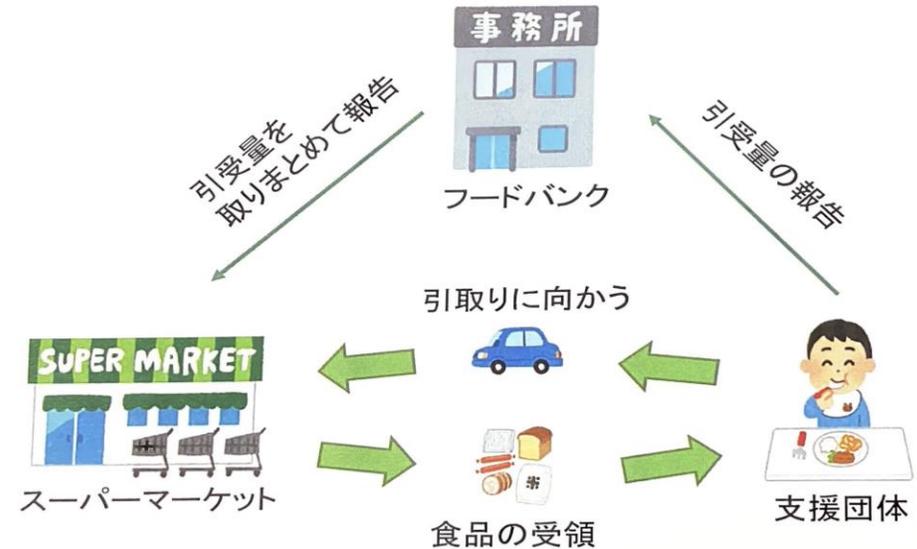
株式会社 ハロース



会社概要

- 本部 岡山県都窪郡早島町早島 3 2 7 0 番地 1
- 資本金 54億4048万円
- 従業員 1307名
- 広島・岡山・香川・愛媛・徳島・兵庫・山口に 100店舗以上展開する食品スーパーマーケット
- 消費者庁食品ロス削減推進大賞 内閣府特命担当大臣賞など数多くの賞を受賞

ハローズモデル



ハローズモデルとは

- 各店舗のフードロス在近隣施設が直接取りに行く
- 近隣施設が店舗へ直接引き取りに行くため、当日消費期限の商品の提供
- 生鮮食品や加工食品、乳製品なども提供可能
- FBのメリット 商品の引き取り、仕分け、配達が必要であるため、経費を大幅の削減可能
- ハローズモデルの欠点 引取店舗が1社1店舗だと引取商品に偏りが生じる

企業の成長とフードロス対策との両立

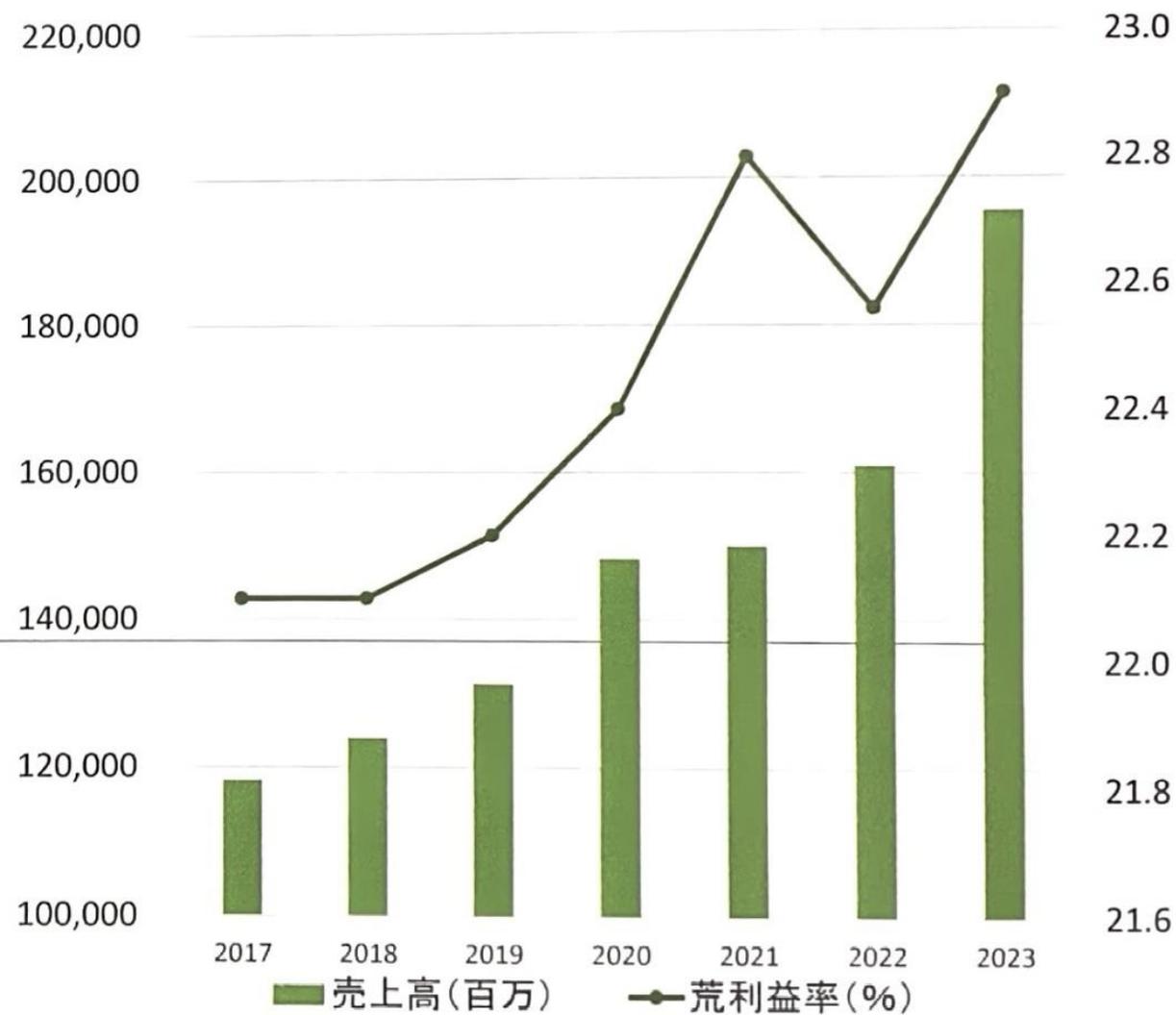
現在の提供量

- 全106店舗 毎月25トン
- 元売価での推定金額 月額2500万円

フードロス対策の問題

- 慈善事業であるフードロス対策活動に対するクレーム →対応にお金がかかる
- 食品に安全性の問題などがあつた際、ブランドイメージの低下に繋がりがねない

廃棄率と売上高の推移



新モデルの提案

ハローズモデルの懸念点

責任の所在の不透明性

食中毒など発生した際に
誰が責任を取るのかが曖昧

Ex) ・ 配給したおにぎりが原因
での食中毒発生



責任者 配給者or 生産者
どっち??

労働力の限界

社会人がボランティアだけで
配給を行うのは限界がある

Ex) ・ 生計を立てれない
・ 長時間労働が難しい
・ 人数の確保が難しい

事業拡大の難化

・ 事業責任者が現地で1から
事業基盤を構築する必要あり



資金力に制限のあるNPO



展開に限界が出てくる

新モデル提案

学生飛脚隊

～地域の生活を学生が支える～



学生飛脚隊とは

概要

- ・ 既存の流れである
「回収→保存→配給」を地元の有志の学生が代替
- ・ 全ての流れを請け負うのではなく
一つの工程だけでも可能
- ・ 学生もアルバイト感覚で、負担なく地域社会へ
貢献できる
→新たなコミュニティーに所属する事で、
交友関係が広がる！！（ガクチカにもなる！！）

・ 既存のフロー



どの工程にも介入可能とする事でNPO負担軽減！

① 労働力確保

概要

- すきま時間の新たな活用方法の提案
- ↓
- 時間、経済共に余裕のある
学生をボランティアとして募る
- ↓
- 既存の課題であった労働力不足を
多くの学生を巻き込む事で解消へ
- ↓
- より多くの家庭へ食料を届ける事が出来る

学生に対するメリット

- 学外での交友関係形成
- 地域社会への貢献を通じたやりがい
- 他者とは違ったガクチカづくり
(差別化をできる！！)

② 事業拡大販路の獲得

概要

- ・ それぞれの地域の大学にボランティア募集を依頼
- ・ 学生確保を通じた大学とのコネクション確保
- ・ 大学を通じて、地元企業との提携確保に尽力



地元大学A



レストランA



スーパーA

新たな回収経路の確保

③ 地域社会の発展

概要

・ 学生がボランティアを通じて
地域の社会問題へ関心を持つ

↓
次世代の意識が高まる

↓
主体的行動の促進

↓
年代問わず皆が問題解決に
取り組む社会が出来上がる



学生・企業・地域住民

三方よしの関係構築

フードロス削減の概要

背景: 日本のフードロスの現状 - 年間約472万トンが廃棄されており、家庭や事業からの食品ロスが問題に。

法的支援: 食品ロス削減推進法

業界のアクション: 閉店間際の値下げ、フードバンク活動、「FIFO」方式の導入

消費者の意識向上: フードシェアアプリの利用拡大

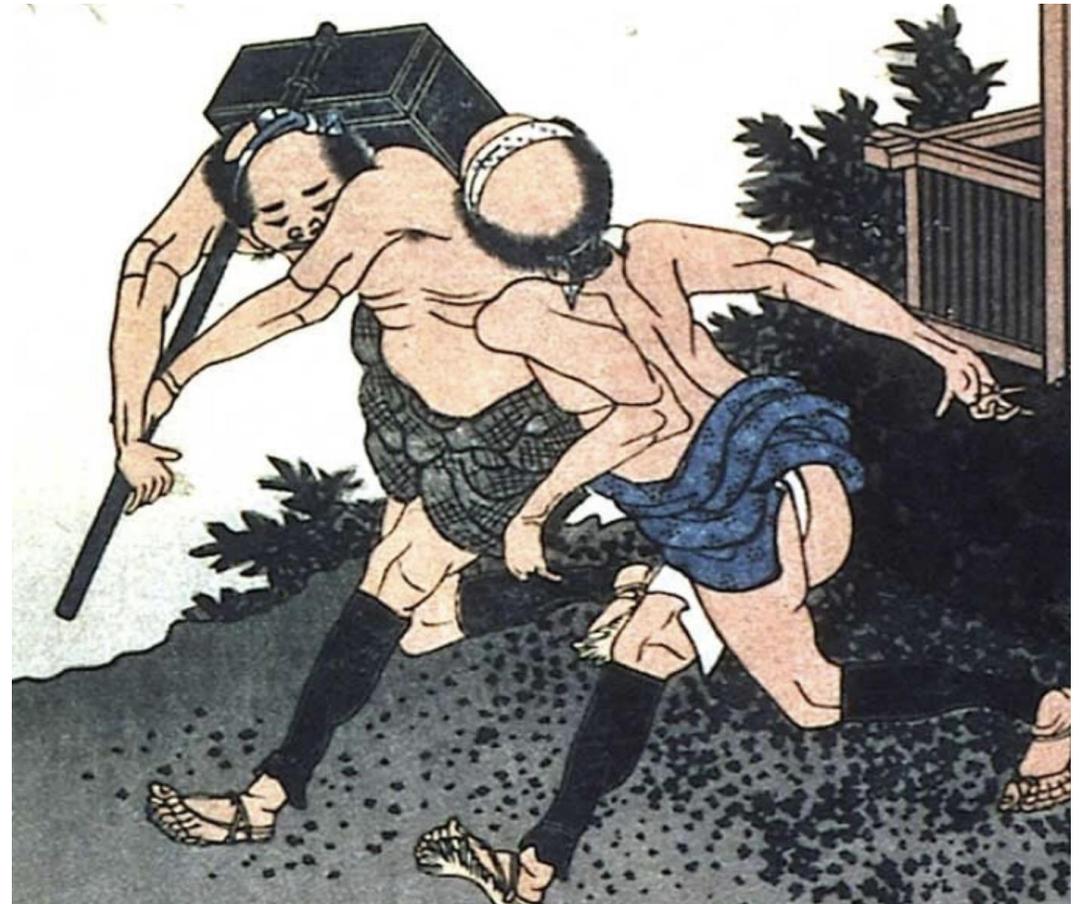


新提案 - 「学生飛脚隊」

- **コンセプト:** 地元の学生が食品回収と配給に参加し、地域の困窮者支援をサポート

<メリット>

- **労働力の確保:** 柔軟な学生ボランティアで地域貢献が可能
- **地域の成長:** 大学や企業、自治体と連携を深める
- **次世代への影響:** 学生の社会問題意識を高め、主体的行動を促進



最後に

- ・フードロス削減に向けて、日頃から私たちにできることはたくさんある
- ・フードロスの現状や実際に行われている取り組みを知ること
→フードロス削減の第一歩

出典・参考文献

株式会社ハローズ

<https://www.halows.com/>

ハローズフードロス関係資料

農林水産省

<https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/recycle/240621.html#:~:text=%E4%BB%A4%E5%92%8C4%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%81%A>

出典・参考文献

オーストラリアの現状

<https://elemminist.com/article/2762>

消費者庁

<https://www.caa.go.jp>

ありがとうございました
